

たいたましい遭難事故がありました。

水素爆弾：初めての解説ですから、一寸長くなります。核兵器の一種で、水素及びその放射性同位体の核融合反応を利用した、水素の同位体や三重水素（トリチウム）の核融合反応を誘発して莫大なエネルギーを放出させる。高温による核融合反応（熱核反応）を起すことから「熱核爆弾」、「熱核兵器」と呼ばれ、その性能は核出力としては原爆を遥かに上回る、史上最悪の核兵器です。

第二次大戦末期、マンハッタン計画で2ヶの原爆を開発しましたが、水爆は1952年にアメリカが実験に成功しております。核出力は10.4メガトン 史上最大の核兵器の開発ですが、重水素、三重水素を零下二百数十度まで冷却液化しなければならず、大規模な装置が必要になって、総重量65トンになり実用兵器にはならなかった。

ところが翌1953年ソ連が重水素などの熱核材料をリチウムと化合させて重水素化リチウム（固体）として用いた水爆を開発、軽量化に成功、その後は米ソが鎬を削り、1956年には大型爆撃機に搭載可能な水爆を開発した。

中国は1966年5月に120キロトンの最初の水爆実験に成功し、1976年11月、4メガトンの水爆実験に成功し、その後 専用の重水生産工場の運転が開始された。

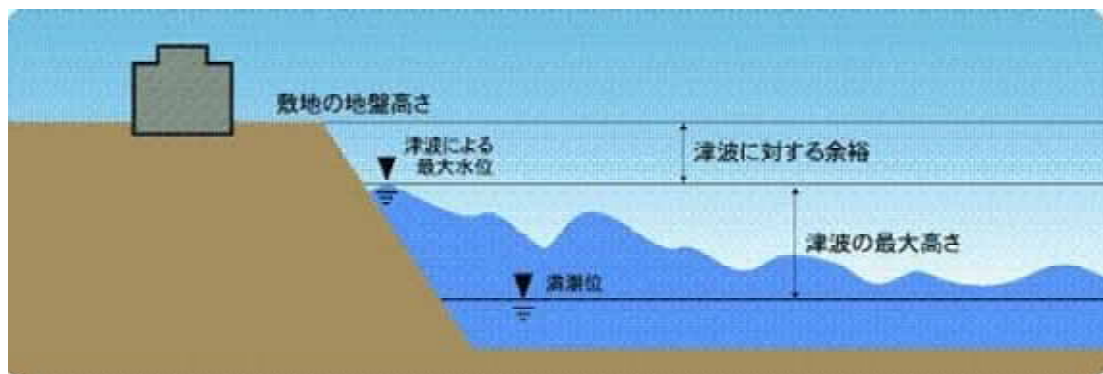
水素爆弾の威力は、原爆よりも更に大きく、アメリカが南太平洋で水爆実験をしたとき危険海域を定め、船舶の立ち入りを厳しく禁止していたが、実験をしたところ予想外の威力に危険海域と定めていた海域の何倍もの海域が影響を受けた。

計算違いだった発表したが、予想もしなかった威力にアメリカも驚いたらしい。

マンハッタン計画の総責任者であったオッペン・ハイマ博士は、全ての公職から追放されたが、理由は水爆は人類を滅亡させる、として水爆実験阻止を訴えたためだ。

現在水素爆弾を保持している国は、アメリカ、ロシア、イギリス、中華人民共和国、フランスで、これらの国は、国連の常任理事国であり、第二次大戦連合軍を構成した戦勝国でもある。

Q：事故の原因は想定外の地震と津波によることは判りましたが、全く不可抗力であって事前に安全対策を執る事は出来なかったのですか？



A：確かに非常電源も含めて6系統もありながら全ての電源を喪失し、冷却水の循環ポンプが停止したため、原子炉内の水は崩壊熱で蒸発、燃料棒が露出してメルトダウンが起きた訳で、残念ながら モシ は許されませんが、モシ 外部電源の鉄塔が地震で崩壊し